

小嶋祥三・南雲純治¹⁾

霊長類、とくにニホンザルの視覚・聴覚に関する閾値測定法を開発し、昭和48年度までに、少なくとも視覚に関しては、比視感度曲線、聴覚に関しては、周波数特性曲線の基礎データを収集する。

2) 学習行動と切断脳²⁾

室伏靖子・浅野俊夫・渡辺允子
小嶋祥三

1. 瞬間的に呈示される光刺激に対する反応時間を指標として、脳梁の反応決定に果たす役割を検討する。
 2. 同時に進行する2種類の強化スケジュール、あるいはChainのスケジュールを、各々独立な2半球に与え、行動統制に働く両半球の機能を分析する。
- ## 3) 計時行動と計数行動

浅野俊夫

1. DRLL スケジュールによるニホンザルの time estimation の尺度構成。
 2. FRスケジュールと2レバー alternation technique を使って自分の反応数をどれだけ正確に計数出来るかを調べる。
- ## 4) 弁別行動

渡辺允子

マッチング反応のメカニズムを動因、刺激変化(汎化刺激・一過性の刺激)、脳損傷の操作により変化させ、反応時間間隔、反応率を指標として分析する。

5) 脳の電気刺激、破壊と行動

小嶋祥三

1. 脳各部位の強化性の検討。
 2. 脳内刺激により誘発される行動と強化性の関係の検討。
 3. 脳内刺激を強化者とした学習行動の検討。
 4. 脳の破壊と動機づけ・学習行動。
- ## 6) 脳内刺激による社会行動の変容

室伏靖子・南雲純治・小嶋祥三

主として個体間距離を指標として、小数群および個体間関係を記述するための研究が基礎的段階を終えたので、今年度は、脳内刺激による個体行動の変容を変数として操作し、今までの研究結果に検討を加える。

研究発表(1971年4月~1972年3月)

論文

- ## 1) シロネズミにおける脳内強化遅延の弁別学習に及ぼす効果。

小嶋祥三・田中道子・山中祥男

〔動物心理学年報, 20: 97-108, (1971)〕

学会発表

- ## 1) ニホンザルのボール引き行動におけるダイナミックス

浅野俊夫・鈴木延夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- ## 2) ニホンザルの行動力の測定(単独での行動力と集団内での行動力との関連について)

鈴木延夫・浅野俊夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- ## 3) ニホンザルのオペラント弁別-予備試験

小川 隆・河嶋 孝・浅野俊夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- ## 4) シロネズミの間脳内側部破壊の行動に及ぼす効果

小嶋祥三

日本心理学会第35回大会(1971)

- ## 5) ニホンザルにおける鏡映図形の弁別行動と側頭葉損傷

渡辺允子

日本心理学会第35回大会(1971)

- ## 6) ニホンザルの同時弁別学習におけるフリーオペラント事象とディスプレイ・トライアル事象の比較

浅野俊夫

日本心理学会第35回大会(1971)

- ## 7) チンパンジーによる部屋の照明の点滅行動

浅野俊夫・熊崎清則

第16回プリマース研究会(1972)

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

研究概要

- ## 1) ニホンザルの分布論的研究

川村俊蔵・東滋・足沢貞成¹⁾

昨年に引き続きニホンザルのポピュレーションを調べ生態学的分布論としての考察を行なった。対象地区は下北及び滋賀、兵庫、三重、福井の4県であり、4県についてはほぼ分布図を完成した。

- ## 2) 下北半島ニホンザル生息地における除草剤による環境汚染の影響についての生態学的研究

川村俊蔵・東滋・鈴木晃・三戸梅代²⁾・足沢貞成

昨年に引き続き上記の研究を行なったが、本研究は代表者、分担者19名に若干の研究補助員を伴う大がかりなもので、ニホンザルを中心に植物・動物の各専門家が集

¹⁾ 文部技官

²⁾ 本吉良治(京大・文)との共同研究

¹⁾ 京都大学霊長類研究所研修員

²⁾ 文部技官

って調査を行ない、採集された資料について化学分析が行なわれた。

3) 自然保護に関する作業

川村俊蔵・河合雅雄・東 滋
鈴木 晃・三戸梅代・足沢貞成

1. 昨年に引き続きIBP-CTSの班員として森林内大型哺乳類の調査を行ない、保護理論・保護対策を考察した。対象地区は下北・大台ヶ原山。
2. 房総スカイライン、鈴鹿有料道路、大杉谷ダム計画などに対し、それぞれ反対運動を展開するとともに、それぞれについてニホンザルを中心とする調査活動を行なった。また福井郡音海の猿害地でのサルの保存に関し、調査とプラン作成を行なった。

4) 農林業に影響を及ぼす野生獣類の管理に関する研究

川村俊蔵・東 滋・和泉 剛³⁾

四手井綱英を代表者とする上記研究において、ニホンザル、タヌキの生態研究を行ない、農林業との関係及び生態学的管理方法の追究を行なった。

5) ニホンザルの遺伝学的研究

川 村 俊 蔵

野沢謙を代表とする上記研究において、ニホンザルの地域ポピュレーションのありかたを究明した。

6) 霊長類とくにニホンザル伝達機構の総合的研究

川 村 俊 蔵

江原昭善を代表者とする上記研究において、ニホンザルの伝達行動における個体差および個性性の追究を行なった。

7) 海外調査のまとめ

河合雅雄・東 滋・鈴木 晃
安藤 滋⁴⁾・林勝 治⁵⁾・水野昭憲⁶⁾

昭和45年度海外調査費(科学研究費)の交付を受け、「東アフリカにおける森林性霊長類のテレメトリ法を中心とした生態学的研究」のテーマでウガンダとタンザニアで調査を行なった。対象としたサルは、*Colobus abyssinicus*, *C. tadius*; *Cercopithecus ascanius*, *C. mitis*, *C. aethiopus*, *C. lhoesti*; *Cercocebus albigena*; *Pan tryglodites*; *Papio doguera* であった。

8) テレメトリによる位置及び行動量の測定

河 合 雅 雄

去年に引き続きIBP-PTに参加し、テレメトリによる方法の開発と検討を行なった。

9) ニホンザル研究林の基礎調査及び接衝

川村俊蔵・河合雅雄・東滋・鈴木晃

昨年に引き続き、今後安定したニホンザルの野外研究地を確保するため、候補地選定のための調査を行ない、屋久島・南勢・木曾・下北の4候補地を選んだ。またそれに基づき林野庁との接衝を行なった。

10) 霊長類の社会生態学・社会性・社会機構が種の生存に対してもつ意味の評価と、進化史的位置づけ

東 滋

11) 高等霊長類の集団の維持機構とその進化の諸問題

鈴 木 晃

12) ニホンザルにおけるあそびの社会学的研究

三 戸 梅 代

あそびの種類の分類と量的分析をすすめ、年令、性、血縁関係などとの関連において、あそびのもつ社会的意味、機能について検討を行なっている。研究は主として幸島の群れを対象にして行なっている。

13) タイワンザルの activity と posture の分析

三 戸 梅 代

研究発表(1971年4月~1972年3月)

論 文

1) 動物社会におけるコンフリクト。葛藤と紛争

川 村 俊 蔵

〔年報社会心理学, 12: 38-50 (1971)〕

2) 音海地区野生ザル生息状況調査書

川 村 俊 蔵

〔福井県, 14, (1971)〕

3) 森林とサル——霊長類の進化における生態学的アプローチ——

河 合 雅 雄

〔季刊人類学, 3(1): 3-50 (1972)〕

4) 種子島でおこったニホンザル地域個体群の絶滅例について

東 滋

〔陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究, 加藤陸奥雄編, (1972)〕

5) ヤクシマニホンザル調査報告

〔同 上, (吉場と共著)〕

6) リュウキュウイノシシのふわけ法による個体群構造の予備的解析

東 滋

〔陸上動物群集の個体数、現存量および生産力測定法の研究, 森下正明編(1971)(土肥と共著)〕

7) Requiem for a chimp.

A. Suzuki and T. Suzuki

〔Africana, 4(7): 23 (1971)〕

8) On the problems of conservation of the chimpanzees in East Africa and of the preservation of their environment.

³⁾ 京都大学霊長類研究所研修員

⁴⁾ 愛知県立大学

⁵⁾ 日本モンキーセンター

⁶⁾ 京大理学部大学院学生

Akira Suzuki

[*Primates*, 12 (3-4): 415-418 (1971)]

学会発表

- 1) The present situation of Japanese monkeys in their natural habitat.
Syunzo Kawamura
The ICLA Asian Pacific Meeting on Laboratory Animals (1971)
- 2) オナガザル科数種の行動域について
水野昭憲・河合雅雄・安藤 滋
日本生態学会第19回大会 (1972)
- 3) ウガンダの森林性サル類のテレメトリによるアクティビティの測定
河合雅雄・安藤 滋・水野昭憲
日本生態学会第19回大会 (1972)
- 4) テレメトリによる森林性霊長類の生態学的研究
河合雅雄・水野昭憲・安藤 滋
第25回日本人類学会日本民族学会連合会 (1971)
- 5) 霊長類のあそびについて
鈴木 晃
日本動物心理学会シンポジウム (1971)
- 6) チンパンジーの群間関係に関する問題点
鈴木 晃
第15回プリマーテス研究会 (1971)
- 7) ニホンザルコドモの社会関係と遊びについて
三戸 梅代
第25回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1971)

変異研究部門

野沢 謙・江原昭善
和田一雄・西邨顕達
庄武孝義

研究概要

- 1) サルの群れの遺伝学的構造に関する理論的研究
野沢 謙・庄武孝義
ニホンザルにはその社会構造の単位として群れの存在が確認されている。群れの遺伝学的有効サイズ、群れの間の移出入率などは、ニホンザル集団の遺伝学的構造と動態を支配する重要なパラメーターである。従来から蓄積しているニホンザルの社会、生態学的知見を利用して、これらパラメーターを定量的に明らかにしようとするものである。
- 2) 霊長類の免疫学的、生化学的遺伝変異の検索
野沢 謙・庄武孝義
遺伝的多型現象の存在を明らかにし、その頻度分布をもとにして、サルの集団の構造と動態を統計的に解明せんとするもので、現在は血液型と血液蛋白の遺伝変異

を明らかにすべく材料の収集と検索を行なっている。

3) 家畜化現象の集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査、および家畜と野生原種の遺伝的交流に関する調査によって東亜諸家畜の起源、源流を明らかにすると共に、家畜化現象そのものの実態を解明すべく研究が続行されている。

4) 霊長類集団中の遺伝的負荷に関する研究

庄武孝義

霊長類集団中の遺伝的負荷を推定することによってインセストと集団の維持機構との関係を追求しようとするものである。

5) 霊長類各分類群の頭骨諸形質の形態学的研究

江原昭善

46年度は、主として各分類群頭骨の X-線像について、顎骨の発達度 (Prognathie と Subgnathie) を調べた。現在顎骨の形態と生活様態、特に食性との関連を分析中。

6) 霊長類各分類群の Manipulation の研究

江原昭善

霊長類各分類群の手の形・構造は、その生活様式を反映して独特の適応型を示す。本研究は、単なる人間工学的な分析でなく、サルの状況と使用パターンを観察・分類し、現在大きく 8 パターンに分けて検索中である。社会部門・河合と共同研究で、すでに46年度共同利用研究会では発表済みだが、さらに分析を進めて近く発表の予定。

7) ニホンザルの生態、形態学的変異に関する研究

和田一雄

志賀高原を中心にして下北半島、白神山など積雪地帯のニホンザルの生活と形態の変異を調査している。無雪地帯のニホンザルのそれと比較して、ニホンザルの変異性、適応性の特徴をとらえ、さらには、ニホンザルの起源の問題にアプローチすることを目標にしている。

8) インド産狭鼻猿の生態・形態学的変異に関する研究

和田一雄

マカカ属の系統・進化を研究するステップとして、インド北西部・デカン高原でアカゲザルを中心にその変異を生態・形態の両面から調査する。

9) ニホンザル自然群における個体の行動の研究

西邨顕達

主として餌づけされたニホンザル自然群を対象として、個体の行動の分類および各単位行動と性、年齢、社会的条件、季節等との関連を質的および量的にみることから、霊長類における行動の変異性、発達、個体性などの問題にアプローチしている。